

ことわざ むかし話

昔、中国で、ある祝い事の日、家の主人が大きなさかずきに入った酒を家来たちにふるまいました。しかし、家来たちは悩みました。みんなで飲むには足りないですが、一人で飲むには十分な量だったのです。

そこで、

「地面にヘビの絵をかいて、一番最初にかけたものがこの酒を飲むことにしよう」

というかけをすることになり、みんないっせいに地面にヘビの絵をかきはじめました。

最初にヘビをかきあげた男がまわりを見ると、みんなまだかき終わりそうにありません。男はさかずきを手に取りながら言いました。

「みんな、おそいなあ。おれなんてみんながかき終える前に、このヘビに足までかけるぞ」

そう言って足をかきはじめました。男が足をかいている間に別な男がヘビをかきあげて、酒の入ったさかずきを取り上げて言いました。

「ヘビに足など生えていない。だからその絵はヘビではない。最初にヘビをかきあげたのは、このおれだ」

そう言って、さかずきの酒を全部のみほしてしまいました。ヘビに足をかいた男は、調子にのって余計なことをしたばかりに、損をしたのです。ここから余計なもののことを『蛇足（だそく）・ヘビの足』というようになりました。